第19回乳癌学会中国四国地方会教育セミナー(診断)

「マンモグラフィ·乳房超音波診断の基本 :ガイドラインの改訂をふまえて」

川崎医科大学 乳腺甲状腺外科 野村長久

今回の趣旨

マンモグラフィ、乳房超音波の基礎を ガイドライン改訂第4版で勉強する

最新の診療ガイドラインで示されている事項について確認し、日常診療においていかに基礎が大切であるか、難解な症例へどのように応用するか、いくつかの症例を挙げて考えていきたい。

大きな変更点(乳癌取り扱い規約18版関連)

- · 腫瘍占拠部位 領域→区域
- ・領域はリンパ節に用いる
- 腫瘍の大きさ cm->mmで表記
- ・胸骨傍リンパ節(ps) ⇒内胸リンパ節 (Im)
- ・術前化学療法がおこなわれる頻度が増えた 'y''を接頭語として使用し、臨床的効果yc、病理的効果ypをTNMの前につける
- 乳房切除術→乳房全切除術

表1. 乳腺腫瘍の病理学的分類(乳癌取扱い規約)

第17版 (2012年)	第18版 (2018年)
I. 上皮性腫瘍 A. 良性腫瘍 B. 悪性腫瘍 II. 結合織性および 上皮性混合腫瘍 III. 非上皮性腫瘍	I. 上皮性腫瘍 A. 良性腫瘍 B. 悪性腫瘍 II. 結合織性および 上皮性混合腫瘍 III. 非上皮性腫瘍
IV. 分類不能腫瘍 V. 乳腺症 VI. 腫瘍様病変	IV. その他

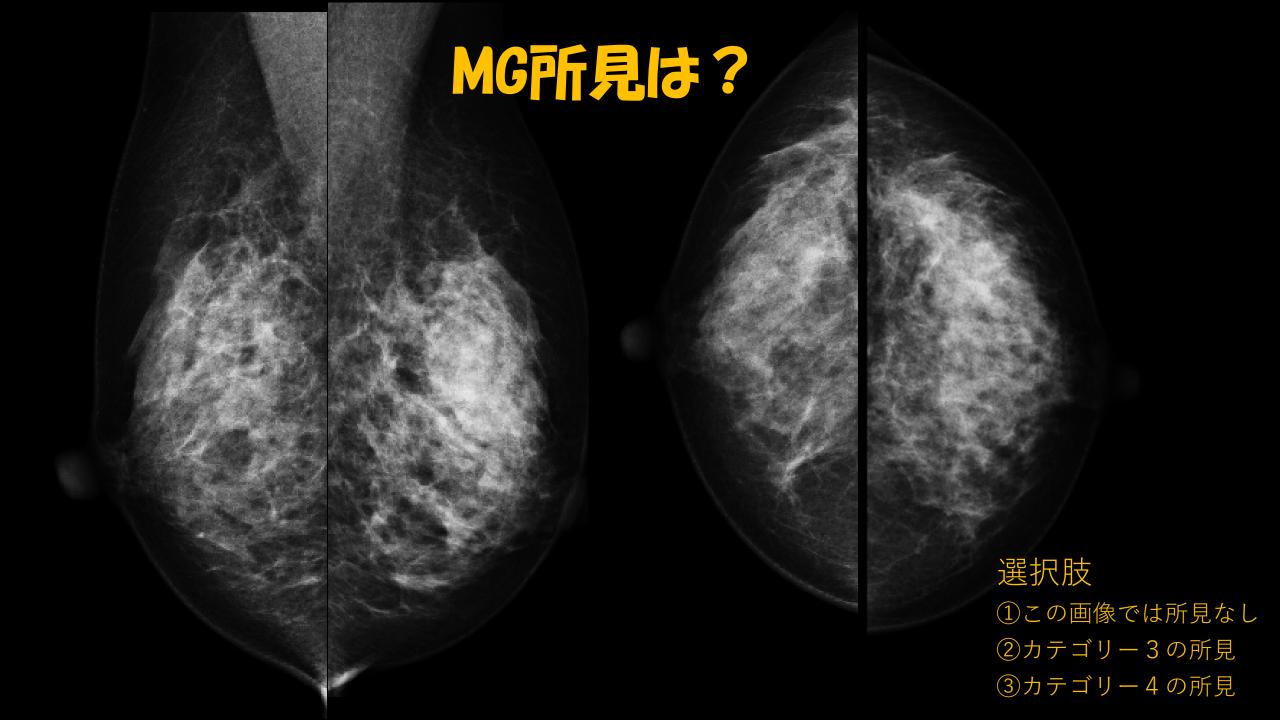
表 2. 浸潤性乳管癌の亜分類

第17版 (2012年)	第18版 (2018年)
a1. 乳頭腺管癌 a2. 充実腺管癌 a3. 硬癌	(1) 腺管形成型 (2) 充実型 (3) 硬性型 (4) その他

症例 1 43歳 女性

•1か月前に乳房の硬結に気付き、近医受診され、紹介された。 1年前に乳がん検診を行ったが異常なし。 2年前には乳房超音波を施行され 異常なし。

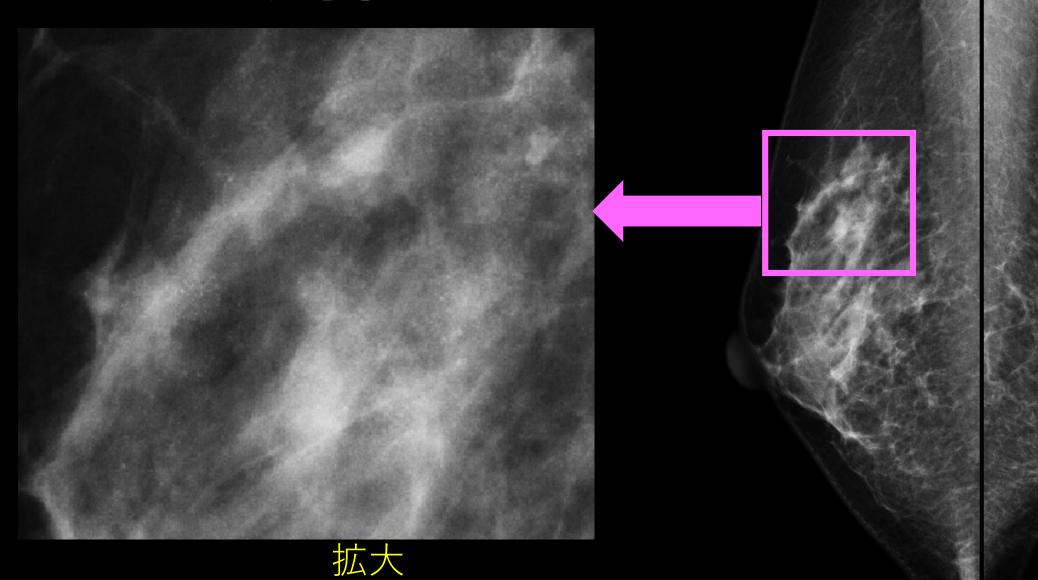
- 家族歴 特記事項なし
- 既往歴 婦人科で子宮頸部異形成で通院

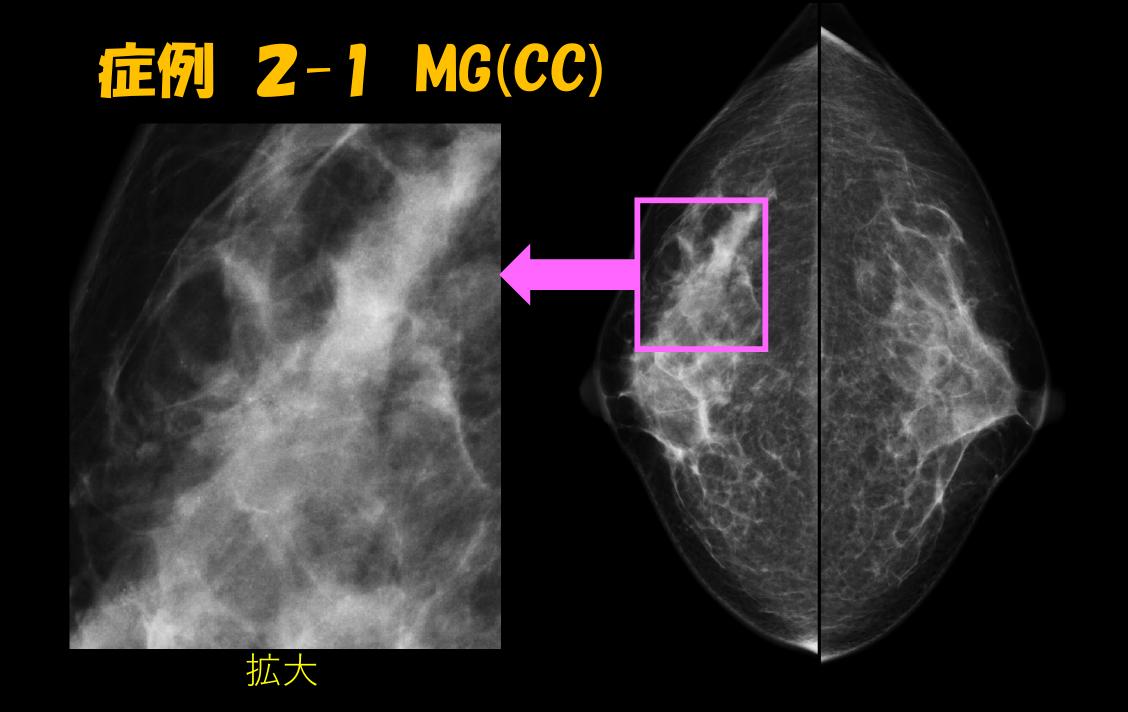


症例2-1(45歳女性)

- 検診で淡く不明瞭な石灰化 カテゴリー3と指摘され当科紹介。
- 自覚症状なし

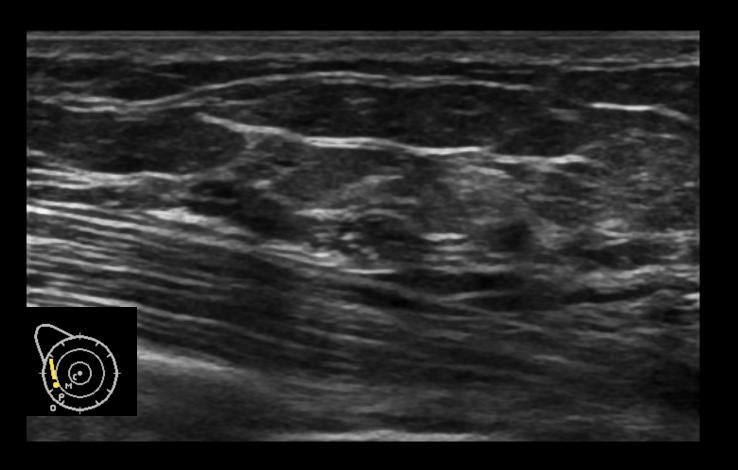
症例2-1 MG(MLO)

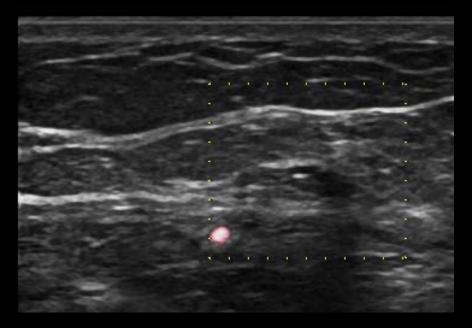


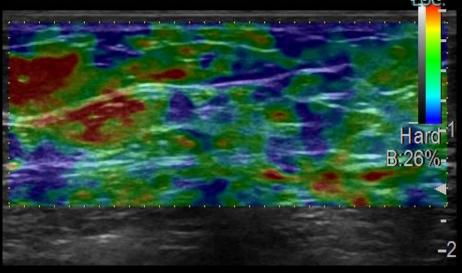


症例2-1US

and the contract of the contra







症例 2-1

次の一手は?

選択肢

- ① USガイド下 細胞診
- ② USガイド下 針生検
- ③ ステレオガイド下マンモトーム
- ④ 経過観察
- ⑤ その他

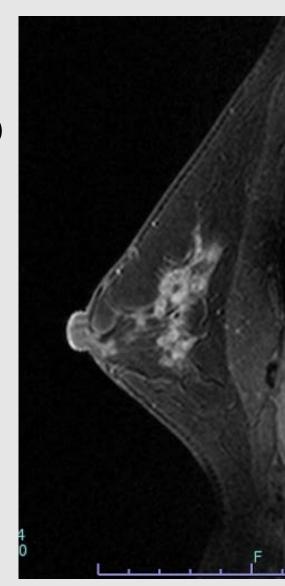
症例 2-2

- 結局、同日にUSガイド下針生検を行った
 - →結果 ADH (Atypical Ductal Hyperplasia)
- MRI施行し、早期濃染される区域性病変を認め、BIRADS 4 (右図)
- 患者に説明し、ステレオガイド下MMT施行となったが・・・ ポジショニングの段階で気分不良となり続行不能となった。

今後の方針は?

選択肢

- ①後日、改めてマンモグラフィガイド下MMT
- ②USガイド下MMT
- ③経過観察
- ④その他



症例3 71歲女性

毎年MG検診を受診していたが異常指摘されなかった。乳房超音波検診で要精査となり、左乳癌が判明した。乳房全切除術+腋窩リンパ節郭清を行い、経過良好である。

● 術後、対側乳房に対し、どのようにFollowしますか?

症例4(70歳女性)

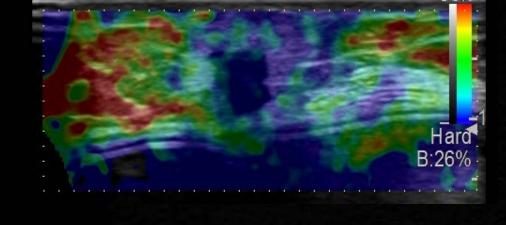
• 6年前にDCISに対して、右乳房全切除+センチネルリンパ節生検+組織拡張術を施行

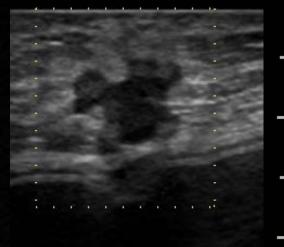
病理: DCIS (pTisN0M0 Stage0)。 術後13カ月にインプラントインプラントへ入れ替え。 定期的にUSでFollow upされていた。2カ月前に異常 認めなかったが、創周囲に腫瘤を自覚した。

症例4 BUS

次の一手は?

- 細胞診
- 針生検
- **MMT**
- 切除生検
- 経過観察





E

